

## 音読シート

1

年

組

番

氏名

ふりがな、現代仮名遣いが書かれています。

春はあけぼのやうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかり  
て、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちが  
ひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも  
をかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の  
寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさ  
あはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆる  
はいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふ  
べきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと  
白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭  
もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもてい  
けば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

## 音読シート

2

年

組

番

氏名

ふりがな、現代仮名遣いを抜いてあります。

春はあけぼのやうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかり  
て、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、蛍の多く飛びちが  
ひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも  
をかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の  
寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへ  
あはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆる  
はいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふ  
べきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと  
白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおして、炭  
もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもてい  
けば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。